

閉塞性水頭症で発症した中脳水道部転移性脳腫瘍の 1 例

池田 耕一 継 仁 山本 正昭
福島 武雄 宇都宮英綱*

福岡大学脳医学部脳神経外科

* 同 放射線科

要旨：症例は69歳の男性。痴呆症状の精査中に意識障害が進行し、頭部 CT で中脳水道部にリング状に造影される病変とそれによる閉塞性水頭症が判明した。右前頭部に穿頭し前角に内視鏡を挿入し、モニター孔経由で第三脳室を観察した。中脳水道入口部に暗赤色の表面不整な腫瘍を認めた。出血の可能性が高いと判断し生検は行わず第三脳室底開窓術のみ施行した。術後、意識障害は速やかに改善し痴呆症状も消失した。術後の MRI で中脳水道入口部にリング状に造影される病巣があり、左小脳、左前頭葉、左後頭葉に多発性病巣がみられた。腫瘍マーカーも陽性で転移性脳腫瘍と診断した。また右肺門部および縦隔にも腫瘍性病変が判明し原発巣と考えた。独歩で自宅退院したが、3ヶ月後、呼吸不全にて死亡した。今回中脳水道部転移性脳腫瘍による閉塞性水頭症を来した稀な症例を提示し、閉塞性水頭症に対して脳室鏡下第三脳室開窓術が有用であることを報告した。

キーワード：閉塞性水頭症， 転移性脳腫瘍， 中脳水道部病変， 脳室鏡手術， 第三脳室開窓術